

# 公益財団法人東京都サッカー協会

## 審判委員会 副委員長 就任挨拶

== ハーフ タイム ==  
東京 F A 審判委員会  
第 5 4 号 (2020 年 2 月)



左より佐藤副委員長、高橋副委員長、蒲澤副委員長

牧野委員長より2019年度から副委員長3名体制の提案を受け、蒲澤淳一、高橋早織、佐藤貴之が新たにその任に就くことになりました。遅くなりましたがこの場をお借りしご報告いたします。

現在審判委員会は4つの部会構成（登録部会、フットサル部会、審判統括部会、総務部会）で東京の審判活動を運営していますが、各部会の部会長・副部会長あるいは部会を構成するパートリーダーが中心となり、講習会や

研修会といった各事業を展開し、直接皆さんに関わっています。私たち副委員長は、パート間あるいは部会間の連携をサポートし、また委員長の手足・頭脳となり、東京で活動する審判員の皆さんが少しでも楽しく良い環境で活動され、また審判技術を向上され、東京のサッカー・フットサルがより良いものになるよう知恵を出し、統率していこうと考えています。

審判委員会では、アクティブ審判員に対しては上級の審判インストラクターの指導の下、審判トレーニングセンター（トレセン）を定期的を開講し、審判技術や必要な知識を習得していただく機会を設けています。一方、グラスルーツを中心とした東京の大部分のサッカー・フットサルを支えていただいているのは、アクティブ以外の審判員の皆さんです。これらの方々一人でも多く関わり審判に興味を持っていただき、また審判技術を習得していただくために、東京都サッカー協会傘下の各連盟内・各市区町村内で活動する皆さんの指南役を務める審判インストラクターを養成しています。審判員の皆さんは是非これらの機会や身近にいる指導者を積極的に活用し、審判員としての幅を広げ、興味関心を高め、東京のサッカー・フットサルの発展に力を貸していただければと思います。今後も東京の審判活動にご協力をよろしくお願いたします。

## ■ 日本クラブユースサッカー選手権 (U15)

### 帯広 0-35 研修会に参加して サッカー2級審判員 阿部直樹

今回、この「第1回 0-35 研修会」のお話をいただいた時、正直嬉しく思いました。年齢だけで判断され、研修の機会も限られ寂しい思いをしていました。個人的には、初めて全国大会で主審ができる研修会へ参加することができ、関東・東京を代表して、全国のいまだ情熱をもって審判活動をしている仲間達と交流できたことが非常に大きな機会となりました。

大会前研修として、①WEB研修（メールで映像配信、それについて映像分析、ディスカッションする。PC・マイク付きインカム必須）が山田修平 INS よりあり、帯広に集合する前に、研修生や INS の方々と顔合わせをすることができました。次に、②競技規則確認問題（第1回15問・第2回16問）をWEB回答し、1日目夜に答え合わせをし、研修生全員の回答が集計され、それについての解説がありました。競技規則の深い理解の必要性を感じることができました。

本研修のテーマは、「正しい判定のための的確なポジショニング」～動き出しのタイミング～でした。

第1日目夜の研修会にて、①INS紹介②競技規則確認問題回答（後日メールにて採点結果送付）③「ポジショニング



左から2人目が阿部氏

を考える上でのサッカー戦術の理解」～ポジショニングに活かせるヒントを見つける～（プレッシング・ショートカウンター・ポゼッション）でした。とくに③のディスカッションでは、積極的な話し合いができ、意外と戦術を理解していない審判員がいることを知りました。また、女子1級や女子国際の方々との交流できたことも自分の視野を広げる一助となりました。

当時のNHK朝ドラのロケ地でもある北海道という壮大で自然豊かな場所で、帯広の風土、北海道所属の審判員、INSの方々、4日間、主審2試合・副審2試合・第4の審判2試合と審判活動に明け暮れ、それについて議論し、時には全国の方々と情報交換したり、審判員としての技術や意識もそうですが、人として非常に成長できた4日間でした。この年代の審判員にとって、本研修会は非常にうれしい機会であると思います。ぜひ、第2回以降も機会がまたありましたら、手を挙げて参加させていただきたいと思います。

今後は、東京としての中核は勿論、関東での立ち位置も見据えて活動し、また、この経験を是非後進の指導にも生かしていきたいと思っています。自分の審判キャリアのもう少し先を見たい気持ちになる研修会でした。

関東の長田委員長、及び上荒副委員長をはじめとした関東サッカー協会審判委員会の皆様、東京都サッカー協会審判委員会の皆様に、心から感謝いたします。今回は、このような貴重な「第1回0-35研修会」に参加させていただきありがとうございました。

## ■第2回座学トレセンに参加して サッカー2級審判員 光田圭佑

残暑が残る9月中旬、今年度2回目となる座学トレセンに参加させていただきました。今回の座学トレセンでは、1級審判員の西村雄一氏を講師として「審判活動において大切にすること」を講義いただきました。講義の冒頭では、サッカー競技規則に記載されている競技規則の理念と精神を全員で確認し、求められる審判像を再認識しました。選手の力が存分に発揮できるような環境を審判員として提供するために必要な方法をその後の講義で共有しました。

「動き」「見極め」「マネジメント」という3つの観点を基に普段試合で行っていることを分かりやすく整理したものでした。選手が求める「正しい判定」や「納得」を生み出すために動きや見極め、そしてマネジメントが存在します。3つの手法を駆使して、ゲームをコントロールすることが求められます。競技者が求める「正しい判定」をするために、また「納得」した上で競技者と一緒により良いゲームを作り出すために、審判員として出来ることを追求していきたいと思っています。選手と審判員は共に良いゲームを創り出す仲間ですが、時に役割により対立します。未熟な自分は、対立することも数多くあります。敵ではなくサッカーに関わる仲間として共通の目標に向かって協力し合えるようにゲームを進めていきたいと強く思いました。選手より委ねられた役割を全うする大切さ、選手のために行動する大切さを今一度確認する機会となりました。今シーズンも終盤に差し掛かり、数少ない試合となりますが選手が力を存分に発揮できる環境を作るために努力していきたいと思っています。



西村氏の座学トレセンの様子

### 2020年の開幕前研修会日程のご案内

- 3月20日（金・祝）S2級開幕前研修会
  - 4月29日（水・祝）S3級開幕前研修会
- 会場は国立オリンピック記念青少年総合センター

## 次号特集！！

2019年度秋S2級昇級者のご紹介



## ■海外審判活動記

サッカー2級審判員 吉川尚志

こんにちは。サッカー2級審判員の吉川尚志です。この度、現在の活動をご報告する機会をいただきました。私は現在「トビタテ留学 JAPAN」という官民共同の留学制度のもと、アメリカ合衆国ウィスコンシン州にて審判活動をしています。皆様の支えがあってこの地で活動ができていることを実感しています。本当にありがとうございます。

現在はケノーシャ という都市にあるカーセジ大学に在学しており、運動科学と教育の2つを専攻にしています。10月末から雪が降り始め、最近では雪かきで一日が始まっています。平日は大学の講義と部活、休日に試合もしくはチームで遠征という生活を送り、ようやく食生活にも慣れてきました。でもやっぱり白米と味噌汁が恋しくなります。

この場で多くは語り尽くせないですが、今回はアメリカでの審判活動を通して、私自身が感じたことに少し触れさせていただければと思います。

渡米後すぐに大学生のシーズン前の調整試合を数試合担当しました。審判活動が開始できたことが素直に嬉しかったのですが、同時に上手いかわないこと、できなかったことをごまかしながら試合進行してきたんだと気づきました。

日本での試合中に自分の判定が誤っているのではないかと感じることは何度も経験しました。しかし、その度に選手に、そして笛をもつ自身に言い訳して判定を正当化してきました。言語の壁で言い訳ができない状態になって初めて自身の弱さに向き合いました。「コツコツと正確な判定を。コツコツと。」最初の

1ヶ月は自身にこう言い聞かせました。言い訳は絶対にできないから90分間とにかく正確な判定を重ねることを意識しました。文字に起こすと手垢のついた言葉のようにも感じますが、今更そんなことに気づいたのかとも感じますが、私は上辺だけでこの言葉を扱っていました。試合中に信頼を得ていくことは本当に難しいことの一つだと思います。

私が試合の一部としてサッカーに溶け込んでいる限り、選手は僕が外国人であることなんて誰も気にせず、サッカーが少しずつ紡がれていきます。そして少しずつ選手、ベンチ、観客、そして同じ審判員との信頼が積み上がっていくのだなと感じます。



CarthageCollege サッカー一部  
監督 Steve Domin 氏と吉川氏



現地での試合の様子

感動したこともたくさんあります。サッカーを通して、またたくさんの仲間が増えました。同じ審判員、他会場で話しかけてくれる選手、サッカー一部のコーチや友人が「尚志と一緒にサッカーをしている仲間だよ」と言ってくれることが本当に嬉しいです。

サッカー文化の違いや選手のフィジカル、審判同士の協力、たくさん学ぶことができ充実しています。ここまでの生活では、私にとって自身の弱さを体感したことが苦しいですが価値ある出来事でした。アメリカでの審判活動を通して一層サッカーそのものが色鮮やかに変化しているように思います。



CarthageCollege サッカー一部のシーズン終了後の写真